

令和5年度 学校図書館活用教育普及講座 開催要項

- 1 目的 GIGA スクール構想により、1人1台端末の本格的な活用が積極的に進められている中、これからの学校図書館活用教育に求められていることを講義と演習をとおして学び、学校全体での実践につなげる研修を行う。
- 2 主催 鳥取県立図書館
- 3 共催 小中学校課、特別支援教育課
- 4 日時 令和5年8月7日（月）（東部会場）鳥取県立図書館 大研修室
令和5年8月8日（火）（中部会場）倉吉体育文化会館 中研修室
令和5年8月9日（水）（西部会場）鳥取県立武道館 会議室
※3日間とも午前10時00分から午後4時00分まで（受付9時半開始）
- 5 開催方法 講義：会場参集及びオンライン
演習：会場参集のみ
- 6 内容 「A I 時代における学校図書館のD X化と“新しい学び”の創造」
講義「A I /D Xと教育・図書館をめぐる動向と展望
—探究的・協働的な学びの指導・支援にむけて—」
演習「“新しい学び”としての図書館（情報）活用教育のデザイン」
 - ・テーマ設定の手順（思考ツールなど）
 - ・学び合い・教え合いの手法（ジグソー法など）
 - ・情報（源）の選択・読解・評価のポイント
 - ・情報の整理・分析・表現のポイント（A I 利用など）
- 7 講師 野末 俊比古 氏
（青山学院大学教育人間科学部教育学科主任・教授／革新技术と社会共創研究所副所長・近未来の図書館と新しい学び研究プロジェクトリーダー）

学術情報センター助手、文部省社会教育官（図書館行政等担当）、青山学院大学文学部専任講師・助（准）教授、国立国会図書館図書館研究所非常勤調査員、国立情報学研究所客員助（准）教授、英国シェフィールド大学情報学大学院 Visiting lecturer（客員准教授）などを経て、現職。国・自治体などにおける図書館・教育関係の委員や講演会・研修会講師などを多く務める。専門分野は教育情報学・図書館情報学。主な著作に『情報の達人』（DVD＋テキスト、全3巻、紀伊國屋書店、テキスト執筆・共同監修、2007）、『専門資料論』（新訂版、日本図書館協会、共編著、2010）、『情報リテラシー教育の実践』（日本図書館協会、分担執筆・共同編集担当、2010）、『問いをつくるスパイラル：考えることから探究学習をはじめよう！』（監修、2011）、『新しい時代の図書館情報学』（新訂版、有斐閣、分担執筆、2016）など。東京大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。静岡県浜松市（旧引佐町）生まれ。

- 8 対象 各学校の管理職、授業にかかわる全教職員、学校図書館関係者
公共図書館職員、市町村（学校組合）教育委員会学校図書館担当者等
- 9 定員 会場参加：100名、Zoomによる視聴参加：300名
- 10 日程（3会場共通）

9:30 10:00 10:05 12:00 13:00 15:40 15:55 16:00

受付	開会	講義	昼食	演習	休憩	演習	質疑 応答	閉会
----	----	----	----	----	----	----	----------	----

11 申込方法

- ・右のQRコードを読み取り、申込フォームからお申し込みください。
- ・オンライン参加申込み者へ7月31日（月）までに電子メールにてZoomの視聴URL等を送付します。
- ・連絡時に使用するためメールアドレスの入力を正確にお願いします。



12 申込締切 令和5年7月24日（月）

13 その他

- （1）学校や市町村（学校組合）教育委員会、教育研究会の研修として本講座を利用されることも可能です。
- （2）申込の順に参加を受け付けます。定員に達した場合には受付を締め切ります。
- （3）講座の内容は変更となる場合もあります。
- （4）演習では、スマホ、タブレット、PC等を持参していただく場合もあります。その際は、事前に連絡します。
- （5）災害、感染症流行等の影響によっては、当日であっても受講方法が変更になる場合があります。講座に参加される前に最新の情報を県立図書館ホームページでご確認ください。
- （6）発熱等、体調に不調が生じた場合、会場参加をお控えください。
- （7）東部会場には、昼食会場がありません。昼食は、近隣の飲食店やとりぎん文化会館のロビーをご利用ください。

【担当】鳥取県立図書館 支援協力課 学校図書館支援センター
学校図書館支援員兼小中学校課指導主事 橋中 真紀子
〒680-0017 鳥取市尚徳町101
電話 0857-26-8155
ファクシミリ 0857-22-2996
電子メール hashinakam@pref.tottori.lg.jp